

日本予防理学療法学会 COVID-19 関連エビデンス

海外情報

No.17

調査者	岡本 祥吾
情報ソースの刊行日	2020年4月16日
情報ソースの調査日	2020年5月6日
日本理学療法士学会 HP に公開された日	2020年5月16日
日本語タイトル	コロナウイルス不安スケール：COVID-19 関連不安の簡単なメンタルヘルスクリーニング
情報ソース	Death Studies
情報のカテゴリー	コロナウイルス不安スケール (CAS)、オンライン調査
発信地域	中国
DOI	doi: 10.1080/07481187.2020.1748481.
URL	<a href="https://doi.org/10.1080/07481187.2020.1748481">https://doi.org/10.1080/07481187.2020.1748481</a>
要約	<p>・ COVID-19 に関連する不安障害の可能性の高い症例を対象にコロナウイルス不安スケール (CAS) という簡単なスケールを開発・評価し、メンタルヘルスへの対処に役立てようと評価の信頼性と妥当性を示した。</p> <p>・ 不安に関連した反応や苦痛による身体症状に焦点を当てた 5 項目として以下のように評価し、解釈することができるとされている。</p> <p>①妥当性項目-全般性不安障害                  ②社会的態度-消化性不安障害と心的外傷後ストレス障害                  ③心理的効果-精神状態                  ④不適応な対処-食欲減退、うつ症状                  ⑤機能障害-全身性不安障害</p> <p>・ 特徴として、カットスコア (90%の感度と 85%の特異性) であり、機能不全の不安の有無を区別できるとされている。</p> <p>備考:                  ・ 医療従事者や研究者が容易に利用できるスケールであり、CAS の総得点は障害の尺度と相関しているとされる。</p>
最も注目するポイント 理学療法にどのように役立つか?	<p>・ 海外では Covid-19 パンデミックによる影響を精神状態にも着目し、評価から病態を捉えようとする報告である。</p> <p>・ パンデミックによって精神状態が不安定になりやすいことから、スケールの利用や covid-19 における精神面にも配慮した介入の必要を参考にできる資料と考えられる。</p>